

## チーム担任制導入についてのQ&A 追加版

Q20 アットホーム感のよさを売りにしている現在から、大きく飛躍してはいないか？

A20 ご意見ありがとうございます。

「アットホーム感」はまさに西合志第一小最大の売りです。子どもたちは家族(兄弟姉妹)のように育ち合っています。このことはまったく変える必要がありません。「たてわり班活動」なども充実させながら、さらにその良さを生かしていきたいと思っています。

一方で、「各学級の間関係(担任も含めて)が良くも悪くも固定化しまう」「その状況を他の学級や他の職員はまったく知らないまま1年を過ごしてしまう(閉鎖的)」という大きな課題があります。皆様の各ご家庭(ホーム)であれば、家庭の内情すべてをお隣の家庭や社会にオープンにする必要はまったくありません。「よその家庭のことには口が出せない」が当たり前です。しかしながら学校は、子どもたちに「社会性」を育むという大きな役割を担っているため基本的には「これはクラスの問題だから、となりのクラスの先生は口を出せない」という閉鎖的のものであってはなりません。しかしながら、本校は、少人数の単学級という環境であるが故に、近隣の他校に比べて無意識のうちに「ホーム感」が強くなり、子どもたちも担任も閉鎖的になってしまっています。また、クラス替えもないため、本校の子どもたちは「社会性」を育むための刺激が圧倒的に少ない状況にもあります。したがって、本来、6年という連続した時間をかけて「社会性」が育まれるべきである学校であるのに、それが不十分という課題を払拭できない状況が残念ながらあります。

学校規模の問題、子どもの数の問題、学級数の問題、クラス替えの問題はどうすることもできません。そこで考えたのが「チーム担任制」です。変えようがない子どもたちの環境ではなく、担任の関わり方を「固定」から「チーム」に変えることで、担任「個人の価値感」での学級経営ではなく、教員がチームで「社会的な価値感」を共有しながら学級経営を行う。これによって各学級がバラバラの「アットホーム(家庭的)」から西合志第一小が1つのチーム「アットホーム・スクール(家庭的でもあり社会的でもある)」へとパワーアップさせることができると考えています。「アットホーム感」はもちろんなくしません。「アットホーム」を「アットホーム・スクール」にするための体制であるをご理解いただければ幸いです。

Q21 学年行事(PTAのレクリエーション)等の打ち合わせは誰にしたらよいのか

A21 年度当初に各学年の行事担当を決める際に学年行事担当も決めます。決まった担当を学

年委員さんにお知らせします。

## Q22 先生方の負担削減にもなり賛成です。

A22 私たち(教職員)の働き方にまで心配りいただきありがとうございます。

教職員の働き方については、社会問題化しており、本校も例外ではなくその改善に向け取り組みを進めているところです。一方で、チーム担任制については、学校課題を解消し、子どもたちに提供する教育の質を向上させたいという強い思いから導入を決めました。導入を検討する過程で、チーム担任制を導入して数年が経過している先進校(兵庫県加古小)を視察し、そこで働く教職員や共に学ぶ子どもたちの姿、生の声を直に確認したところ、このシステムが定着すれば、結果的に「子どもたちのため」「教職員のため」の両立が叶うという大きなメリットがあるとわかりました。

チーム担任制にすることで、複数学年の児童を担当することになる(担任する児童が増える)ため物理的責任は増えます。一方で、その責任を個人ですべて負うという心理的負担は軽減されると思われます。また、チーム担任制は、児童理解や学習指導、生徒指導等のすべての教育活動を個人ではなくチームで行う(協働・連携する)必要があるため、必然的に私たち(教職員)の個々の教育技術が高まっていくとも考えています。

これらのことが結果的に私たち(教職員)の働き方の質の向上につながればありがたいと考えているところです。

## Q23 3.4.5.6年の授業の内容が違うため、準備するのは大変ではないか？

A23 私たち(教職員)の働き方にまで心配りいただきありがとうございます。

チーム担任制と同時に導入する教科担任制については、国も小学校での積極的な導入を推進しています。小学校で当たり前とされてきた固定担任制の場合、担任する学級で、基本的にはすべての教科・領域を一人で考え、準備し、授業しています。担任の業務負担は非常に大きいです。また、担任個人の経験や技量も子どもたちに大きく影響します。一方で、教科担任制では、複数学年にはなりますが同一教科の授業をすることになります。各教科の学習内容は連続性があり、また、学ぶ時期もおよそ同じ時期であることが多いです。(例:2年生がかけ算九九の学習している時期に3年生もワンランク上のかけ算やわり算の学習をしている)したがって、授業者はその連続性を意識した授業づくりを考えたり、学習課題を準備したり、場合によっては異学年合同授業を計画することもできます。このことは、毎時間、違う教科の準備をするよりかなりの負担軽減になります。また、教員にはそれぞれ専門性や得意分野があります。その専門性や得意分野をうまく組み合わせることで担当教科等を定めることができれば、子どもたちにも質の高い学びを提供することができるようになります。

Q24 チーム担任制導入は結局決定事項なのでしょうか？

A24 次年度の学校の人員体制上、チーム担任制の体制整備ができないような場合にならない限り、子どもたちのためにぜひR8年4月から実施したいと思っております。

Q25 決定する前に保護者への説明と同意を得る段階を踏んでいただくことは出来なかったのでしょうか？

A25 ご意見ありがとうございます。

学校運営や指導体制については、学校教育法に基づき校長の責任で編成することになっております。チーム担任制の導入については、校内にプロジェクトチームを立ち上げ、学校課題（クラス替えがないことによる人間関係の固定化・学力向上・単学級固定担任制による一様性・閉鎖性など）を共有し、先進校視察や各種文献等による研究、教職員での議論を重ねて参りました。本校PTA執行部の皆様にも事前説明をし意見を伺う場も設けさせていただいたところです（そこで出た意見や質問等をふまえて第1弾のQ&Aを作成）。このような段階を踏んで、チーム担任制で多様な教職員が複数で子どもたちに関わり続けることにより、子どもたちに提供する教育の質を向上させることができる、きっと「子どもたちのため」になると校長が判断しました。

しかしながら、本件に関しましては、次年度4月に突然の発表ではなく、事前の説明等をしておいたほうがよいと校長が判断し、この度、保護者の皆様及び子どもたちにも事前説明を直接おこなったところです。併せて、説明資料等をHPにも公開しました。

合志市教育委員会には、これまでも情報提供を行い、指導助言をいただいております。また、西中校区学校運営協議会、西合志第一小連絡会（地域）等への対外的な説明等も行い理解を得ました。

今後も、保護者の皆様や子どもたち、関係者の皆様の声をお聞きしながら、「子どもたちのために」よりよい体制となるよう一つ一つ改善し、教育活動を充実させていきます。引き続き理解とご協力をお願いいたします。

Q26 導入するにしてもあまりにも変化が大きいと戸惑いや不安も大きくなるため、段階を踏んだ導入は難しいでしょうか？1.2年生はある程度担任への依存も必要であると思うため、そのまま。中学年、高学年の2学年ずつでチーム担任制を導入等・・・。

A26 ご意見、提案ありがとうございます。

いただいたご意見や方法については、職員間の議論でも同様の意見が出て検討したところです。さまざまなパターンを想定し議論を重ねた結果、「児童の発達段階」と「限られた人員」等を踏まえ、「1・2年」「3・4・5・6年」という学年割りが現時点で考えられるよりバターの学年割りであるという結論に至りました。次年度以降、取組を継続していく中で、「子どもたちのために」よりよい形を作っていきたいと思っております。

Q27 説明ではメリットばかりの内容だったように感じますが、デメリットもきっとあると思います。メリットだけでしたら、きっと今頃どこの小学校でも、導入されていることと思います。それに至っていない理由は何でしょうか？

A27 ご意見等ありがとうございます。

デメリットについては、「子どもにとって」「保護者にとって」「教員にとって」の3つの観点で職員間で幾度も議論をしてきました。チーム担任制と固定担任制双方のメリットとデメリットを整理し、その解決策等を出し合った結果、チーム担任制によるメリットを最大限に生かしながら、出てきた課題を一つ一つ丁寧に解決していく方が、現時点での本校の課題の解決とさらなるパワーアップにつながるとの結論に至りました。職員間やPTA執行部との議論の中で出てきたデメリットと考えられる事項の対応策や考え方についてはQ&Aでお答えさせていただいております。

チーム担任制については、その効果が認められ、全国的には少しずつ導入する学校が増えていると聞いています。「効果が認められている」、「メリットも理解できる」「軌道に乗っている学校からはデメリットの声が聞かれない」のになぜ他校は導入しないのか？原因は様々あると思いますが「デメリットがあるから」という理由は多くないと思っています。先進校視察、文献による学び、職員間での議論を経て今私たちが思う「導入を阻む障壁」は「小学校は固定担任制が当たり前という固定観念」「教職員自身が経験したことがない新しい取組、未知への不安」であると思っています。実際に私たちもこの障壁に何度もぶつかり後ろ向きになることもありました。しかし、最後「よしやるぞ！」と校長が決断できたのは、「第一小の子どもたちのために『チーム担任制が必要だ』」という「情熱」と「覚悟」が全職員から感じられたからです。

私たちにとっても初めての経験です。100%完璧なスタートにはならないかもしれませんが、「これまでよりも明らかに悪くなった」ということにならないよう、出てきた課題の一つ一つ丁寧に向き合いながら取組を進めて参りたいと思います。

Q28 責任の所在の明確化や先生方の情報共有を今まで以上に密にする必要性、所謂できる先生への業務集中等課題が多くあると思います。学校の変革期は混乱も生じると思いますが、今いる子供たちがその犠牲となることだけは避けていただくよう、お願いしたいです。

A28 貴重なご意見ありがとうございます。

ご指摘の通り、今いる子供たちがその犠牲となる(今よりも悪くなる)ことだけは絶対に避けなければならないと全職員で肝に銘じているところです。

初めての取組であり、課題も出てくるとは思いますが、一つ一つ丁寧に解決、改善しながら関係するすべての人に「チーム担任制はいい」と言ってもらえるよう、職員一丸となってチームでがんばって参ります。”